

美濃陶磁歴史館だより



連続 うちんたあのお宝、なんやね？
コラム 第16回 肥田町の上林遺跡土岐市初の発見が！

上林遺跡は、肥田町浅野にある遺跡です。縄文時代の石器や、古墳時代から中世の陶器が採集されています。これまで4次にわたる発掘調査を行いました。主たる成果は得られていませんでした。しかし、平成30年度に実施した5次調査で、土岐市初となる縄文時代と古墳時代の重要な遺構や遺物が多数発見されました。今回はその内容についてご紹介したいと思います。

土岐市初！縄文時代の土器棺墓を発見
土器棺とはその名の通り土器を棺にしたものです。上林遺跡で見つかったものは、縄文時代晩期後半（紀元前1000年頃）の土器棺です。底が欠け、全体の5分の1程度しか残っていない3つの土器を、上下左右に組み合わせて棺状にしたものでした。主に乳幼児（新生児などを含む）のお墓と考えられており、東濃地方では、恵那市や中津川市で多数見つかっていますが、上林遺跡のような組み合わせの土器は確認されていません。上林遺跡もしくは土岐市周辺地域のオ

リジナルの組み合わせと考えられます。土器棺墓は通常、土壙墓と共に複数築かれることが多いので、周辺には多数の墓が存在し、またその近くには居住域もあったと推定されます。

古墳時代の竪穴住居と特殊遺物

古墳時代の発見としては、前期（4世紀前半）の竪穴住居1棟と、住居内から複数の土師器（壺・甕・鉢・器台）が出土しました。甕には、口の部分がS字状に成形された「S字甕」と呼ばれる特殊遺物も含まれています。主に愛知県や三重県などの伊勢湾沿岸地域で作られた土器ですが、本土器は表面のハケ目調整、器壁の厚さ、色調、自然科学分析結果から土岐市周辺で精巧に作った模倣品であることが分かりました。こうした模倣品は東濃地域では初めての発見です。土師器はほぼ完形のものばかりで、炭化物を多く含む層中から確認されたため、民俗事例にもみられるあの世で住むための家を送る「家送り」などの儀式に用いられた可能性が考えられます。



縄文時代の土器棺墓

古墳時代の竪穴住居から出土した土師器



S字甕

企画展のご案内

第1展示室 「重要文化財公開 元屋敷陶器窯跡出土品展」

重要文化財に指定された2,431点の出土品のうち、黄瀬戸や志野、織部など、選りすぐりの75点を展示しています。

第2展示室 「発掘調査報告展 ～土岐を掘る～」

土岐市内で近年に行われた多くの発掘調査の中から、浅野館跡など9つの遺跡を厳選し、実際に出土した遺物や調査写真などとともに分かりやすく紹介しています。

5/15(日)まで開催中

美濃陶磁歴史館
(☎ 051245)